



年 組 名前

道新で  
ワークシート

## 「ダブルケア」北見などでも

育児と介護の負担を同時に背負う「ダブルケア」の問題が北見市など各地で表面化している。少子高齢化や晩婚化、晩産化が背景。行政の窓口で寄せられる相談件数はまだ多くないものの今後、深刻化するとみられ、専門家は、地域で支える仕組みを早期に作る必要性を訴えている。

(熊谷知喜)

## 地域の支え構築急

北見市内の主婦いくこさん(37)＝仮名＝は小1の長女(6)ら娘3人を育てながら、認知症の義母(78)の介護に追われている。

義母は自宅隣の二戸建て住宅で1人暮らし。昨年5月にアルツハイマー型認知症の初期と診断され、今年2月から3カ月間、体調を崩して入院すると物忘れがさらに激しくなった。現在、要介護3。退院して帰宅後は週3日、通所施設でレクリエーションなどを楽しむ以外は自宅で過ごす。

いくこさんは毎日、3食分の食事を作って義母宅に届けるほか、会社員の夫(43)の力も借りながら部屋の掃除や洗濯などをこなす。3人の娘の育児も並行。特に三女(1)はおむつの交換など日々の世話では手が離せない。

義母はトイレなど身の回りのことは1人でこなせるが、いくこさんは「将来、症状が悪化したり、歩くことができ

なくなったら子育てとの両立はできるだろうか」と不安を拭えない。

内閣府の推計では、ダブルケアに直面する人は全国に約25万人。第一生命経済研究所が2016年、インターネットで実施した調査によると、35歳以上で出産した女性の52・9%がダブルケアを経験していると回答した。

北見市によると近年、市内の地域包括支援センターなどにダブルケアに関する相談が



いくこさんが毎日、手作りする義母の食事。幼い娘を抱え、負担は増す一方だ

## 少子高齢、晩婚 → 育児と介護 同時に負担

寄せられるようになった。件数はわずかで市は集計していないが、市介護福祉課は「ダブルケアの問題自体、まだ地域に認知されていない。相談していないけれど悩んでいる人も多いのではないか」とみる。

北見市東部・端野地区地域包括支援センターでは昨年、幼稚園児と60代の認知症の義母がいる30代の女性から相談を受けた。今年、義母が市内の通所介護施設でサービスを受けられるよう対処した。同センターは「今後、相談は増えるだろう。夫婦両方の親の介護が重なる『トリプルケア』もありうる」と話す。

自身もダブルケアを経験した札幌市在住の介護コンサルタントの野嶋成美さん(55)は「ダブルケアを背負う当事者は外部の助けを借りず、自分で頑張ってしまう傾向にある」と指摘。「ただ、晩婚、晩産化が進む中、この問題は着実に広がる。24時間態勢で親や子供を預かるなど、地域や行政できめ細かに支える仕組みがますます必要になる」と訴えている。

2018年8月16日朝刊 北見・オホーツク面(記事は再編集しています)

①「ダブルケア」とはどのような問題ですか。記事を参考に書きなさい。

②「ダブルケア」に対し、どのような対策が必要だと思いますか。あなたの考えを書きなさい。